

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(きずなユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和7年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和7年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の『尊厳の保障』『家庭的な雰囲気の提供』『安心・自立・自律』『絆』を念頭に置き、日々利用者が安心して「いい顔」で過ごして頂けるよう努めている。住み慣れた地域と環境が似ており、周りには田畑が見て取られる。荘の敷地にも畑を作り、色々な野菜などの収穫にも一緒に行っている。看護師も在中しており日々の健康管理、提携医との連携なども対応が早いことは、利用者の安全・安心であり家族の安心にもつながっている。イベントなども関連保育園の園児と一緒に行事など利用者の喜びに繋がっている。職員は利用者との交流を日々努め観察し、少しの変化も見逃さず健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、基本理念の家庭的な雰囲気と地域住民との交流を行ないながら生活して行く事を念頭に置き、年度初め、中間、月間目標に掲げ、理念に沿ったケアが実践できるよう努めておられます。田園風景の広がる立地で、利用者が住み慣れた地域と似た環境にあります。ホームの畑で収穫された野菜を使った献立も提供されたり、手作りおやつ、行事食、特別食の提供も行われ食が楽しめるよう工夫されています。コロナ5類移行に伴い従来からの交流のあった保育園や児童クラブ、地域の夏祭りやとんどさんにも参加する機会がありました。現在は隣接する小規模多機能の看護師を中心に健康管理が行われており、協力医との連携が図られ、利用者、家族の安心につながっています。今年度よりリフトを導入され、利用者はゆったりと浴槽に入り入浴を楽しんで頂くことができ、職員の負担軽減、生産性の向上につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲げ、入職時に説明を受けている。家庭的な環境と地域住民と交流の下で生活していくことを念頭に職員全員の認識として、かつ意識的に年度初めや中間でも月間目標に掲げ理念に沿って日々の介護活動に努めている。	職員は基本理念を理解され、理念の実現に向け、振り返りの時間を持たれ、ケアについての意識付けも行っておられます。年度初めや中間でも月間目標に掲げ理念に沿ったケアの実践につなげておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中に七夕会、敬老会、クリスマス会等々、地域の保育園の園児たちとの交流を設ける事が出来た。ただいまだにコロナウィルスや、インフルエンザ等の流行りがあり一般地域との交流的なものは控えている。	コロナ5類移行に伴い、従来かおこなわれていた地域のとの関わりが再開されてきました。法人内の保育園、児童クラブとの交流が行われました。地域の夏祭り、とんどさんにも久しぶりに参加できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は一度、実習受け入れを行われた。ただし例年行う学生ボランティア等の受け入れ等は様子を見るとし中止となっている。入所相談、認知症、介護の電話相談は随時対応を行う。地域の子ども達を招待し敬老会等を開催し、認知症の方と接する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度初めに年間スケジュールを計画し運営推進会議を開催。毎回運営状況の報告を行っている。	2ヶ月に1度開催されており、ホームの現状報告が行われ、意見交換が行われ、ホームの運営に活かされています。	昼食試食会や地域との災害時の訓練等に参加した頂けることも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が出雲市市福祉保健課に運営推進会議の議事録を毎回提出し、顔なじみになるよう努めている。介護相談員の方が訪問され、入居者の方から聞き取った内容や気づきを報告して頂いている	管理者が出雲市市福祉保健課に運営推進会議の議事録を毎回提出され、顔馴染みになるよう努めておられます。介護相談員の方が訪問され、入居者の方から聞き取った内容や気づきを書面で報告してもらわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を全職員が理解し日々取り組んでいる。ユニット会議では色々な角度から意見交換し全員で身体拘束について話し合っている。。日中の玄関の施錠等は行っていない、居室のセンサー等も転倒防止のケアの為に家族に了解を取り行われている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1度行われおり、全職員が理解するよう取組んでおられます。ユニット会議でも意見交換し全員で身体拘束について話し合っておられます。日中の玄関の施錠等は行われていません。居室での転倒防止の為、家族に了解を取りセンサー等の設置が行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関してユニット会議などで日常的に管理者と職員が共通の認識が出来るよう努めている。職員一人一人が高齢者虐待の正しい知識をもち日々ケアを実践出来るよう心掛けている。職員同士ケアに対する悩みも相談出来る様に心掛けている。	虐待防止委員会も3ヶ月に1度行なわれています。ユニット会議等でも日常的に共通の認識が出来るよう努めておられます。職員一人ひとりが高齢者虐待の正しい知識を持ち日々ケアを実践出来るよう心掛けておられます。職員同士でケアに対する悩みも相談されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護を学ぶ機会は殆ど出来ていない。、成年後見制度の必要な利用者が今年度はおられずに理解に努めるよう心がけるが、その理解は周知出来ていない。今後市と協力しながら事業所内の実践に努めて行く。今後利用される場合は手続きなどのサポートを行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な時間をかけ、十分な説明と文書により同意と納得を得ている。解約時は退居後の生活支援もスムーズに移行できるよう連絡調整を伝えて、入所後起こりえる事に関しては事前に文書にて説明し、同意・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に本人・家族の意向や生活歴を把握して介護計画を作成している。入居時には主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行っている。面会時や、お電話する時、毎月の手紙などで状況を報告し、ご家族が理解し意見が出しやすいように心掛けている。	利用者には日々の会話のから意見・要望を聞かれています。家族へは面会時、電話連絡やケアプラン変更時に意見・要望を伺うようにしておられます。毎月の手紙等で利用者の状況を報告し、意見が出しやすいように心掛けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者補佐が現場におりグループホーム内での職務が、日々職員の意見・提案を取り入れる事ができ、業務の細かい事や他部署との連携を円滑に行えるよう心掛けている。何かあれば管理者に報告し働きやすい職場になるよう連携し努めている。	ユニットリーダーを中心に運営に関するユニット会議が開かれており、職員の意見・提案を取り入れる機会が設けられています。管理者が参加できない場合には報告を受けておられます。	ユニットリーダーと管理者の間の定期的な会議の開催に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の希望と負担を考慮した勤務を組み、日々の関りで実績や努力を認め、やりがいに繋がるよう努めている。現在少し職員不足ではあるが時間外手当てによりカバーしているのが現状である。今年はリフトを購入し入浴の際の職員の負担軽減になるように行っている。	管理者は、職員の希望と負担を考慮した勤務を組み、法令の改正に合わせ就業規則や給与規定等、やりがいに繋がるよう努めておられます。職員不足ではありますが、時間外手当でカバーされています。人員確保のために外国人技能実習生の受入れも行われ、今年度リフトを購入し入浴の際の職員の負担軽減が図られました。	職員の頑張りに対して評価してもらえる仕組みの導入も良いと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	管理者は、職員個々の力量把握は困難だが大き な心で見守ってくれる。現在は法人外での研修 参加も行っており並行してzoomなども利用し研修 の機会を設ける様努めている。リーダー等中心 に日々行うように努めている。	職員個々の状況に応じた研修に参加されており、 現在は外部研修にも参加されることと並行して zoom等も利用し研修の機会が設けられています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	他グループホームとの密な交流はないが、隣接する なごみとの交流はある。職員の中には他の施設 との交流は持つよう努力している。研修の機会も 増え交流は少しずつ増えていると思われる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を聴く事、安心して利用して頂けるよう相手 を理解する事に努めている。新入居者には在宅 での生活と変化を最小限に出来るよう、出来る 限りの要望を受け入れるように心掛け、信頼関 係の構築を優先に支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	よく話を聴き安心して利用できるよう努め、出来 るだけ要望を受け入れ対応を行っている。家族 には自分がしたい事、できる事を共に考え一緒 に利用者を支える事を理解して頂いている。日々 の状況は毎月の手紙や面会時に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居は家族にとって一つの手段 であって、迷っている家族には必要な情報を提 供し利用者にとって一番良い方法を十分に考え る時間を持ってもらえるよう努めている。自社グ ループに特養も併設されており、状況に合わせ 説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性である「入居者から学び 共に過ごしていく」事を職員全員が実践出来るよ う努めている。入居者のADL変化に寄り添い 個々の「できる事」を大切に、過度のケアになら ないよう努めている。自然と役割ができ家事など も分担しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時や電話、手紙、などで家族とのコミュニ ケーションを取る様に努めている。またグループ ホーム入居により家族の介護の役割が無くなっ たのではなく、共に入居者を支えていく事を伝え、 協力関係を築き安心して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の希望を聞き可能な限り外出や外泊、面会を支援し、コロナ下で中止となっていた事がほぼ前の状況に戻っています。電話の取り次ぎや、面会は居室やリビングで自由に一緒に過ごして頂いている、手紙の内容の拡充(写真を多用)して対応している。	本人の希望や家族の希望を聞き可能な限り外出や外泊、面会を支援し、コロナ禍で中止となっていた事がほぼ従来の状況に戻っています。電話の取り次ぎや面会は居室やリビングで自由に一緒に過ごしておられます。	外出が難しい時も手紙や写真により馴染みの方との関係継続が行われていますので、昔話から回想法につなげられると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在入居されている利用者の関係性や、体調等を十分考慮し利用者同士が支え合う場面を大切にしている。会話や歌、一緒に共同製作する壁画など行っている。意思疎通が難しい利用者も一緒に活動の場に入って頂き、孤独感が出ないように行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の理由は主に入院や転所である。管理者が家族と引き続きコミュニケーションを図り、今後の生活や介護の相談に乗り不安を取り除けるように努める様に心がけている。今後も相談などお聞きできる事を伝えている。他でお亡くなりになった時挨拶に来られる場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聴き、観察し取り組む様に行っている。自分本位にならないよう必ず利用者の立場に立って考え認知症を理解し、利用者の感情に寄り添う事が出来るよう行動する。職員、管理者と相談し情報交換し助言し、本人らしい生活が出来るように努めている。	本人や家族から話を聴き観察し、表情からも理解するよう努めておられます。自分本位にならないよう必ず利用者の立場に立って考え認知症を理解し、利用者の感情に寄り添う事が出来るよう、職員間で相談・情報交換を行ない、本人らしい生活が出来るように努めておられます。	利用者の思いや意向から本人の生きがいや長生きの目標につなげている様にしていかれると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本や家族のほか利用者を支える周囲の人、ケアマネ、利用していたサービス事業所等からの情報収集に努める。その情報をタブレットに記録し職員がいつでも共有し活用できるようにする。本人との日常会話からそれまでの生活歴や思いなどを聞く様に心がける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察とタブレット記録、申し送り等で把握し、ケアカンファレンスでの総合的なアセスメントに役立てる様にしている。その日の体調や気分に応じて対応する事を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のコミュニケーションで本人の気持ち、希望を確認する様に努め、電話や面会時で家族の思いを汲み取り半年に1度アプランを見直す。ケアプランに沿って日々過ごしているかを毎日確認している。独りよがりなケアにならないよう注意し職員間で情報共有を行う。	日々のコミュニケーションで本人の気持ち、希望を確認する様に努め、家族の意向も聞き取り、半年に1度ケアプランの見直しが行われています。部屋担当が今の課題からプランを見ながら素案作りをされ、ケアマネとリーダーで話し合い原案、他の職員に確認、意見をもらい本案を決定されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体温や血圧の変動が一目で分かる様にタブレットを活用し、日々の状態も記録し職員間で共有できるように行っている。	体温や血圧の変動が一目で分かる様にタブレットを活用し、24時間シートも使用し確認されており、日々の状態も記録し職員間で共有が行われています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に合わせた行事や外出を計画している。保育園児とのイベントの交流も行われた。利用者の安全を基本に、一人一人の考えを考慮し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族のほか、利用者を支える周囲の人から情報収集し、入居する事で関係が途切れないよう、できるだけ継続できるよう、面会や電話の取り次ぎを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行っている。当事業所の提携医との連携についても説明し希望時には変更を行う。今年度は一人の方が納得し変更された。緊急時は速やかに電話で報告し納得と安心を得るよう行っている。	入居時に主治医の希望を確認し在宅時の医療が継続できるよう行なわれています。ホームの協力医の連携についても説明し変更を希望される方もあります。内科以外の受診は家族に依頼されています。緊急時は速やかに電話で報告し納得と安心を得るよう行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度はグループホームの看護師が体調不良の無い時があったが、隣接するグループ内の看護師の協力もあって対応している。また協力病院も近隣にあり、夜間・休日にも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時情報交換し良好な関係を築き、早期退院に努めている。入院時は家族からも情報を得るよう努めている。利用者個人の情報提供書を月に1度担当が見直している。	入院時は病院の地域連携室のソーシャルワーカーと連携を図り、情報提供を行ない、早期退院を目指しておられます。退院カンファレンスも行ない退院後の生活の注意点等伺われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「重度化した場合の対応」を文書で説明、同意を得ることにより、希望の終末期の在り方を確認するようにしている。契約時は「考えられない」との事が多いが、本人の変化、や事業所に出る事、出来ない事の理解の確認等を行うように心掛けている。必要に応じてかかりつけ医から説明を受ける場を調整している。	契約時に重度化した場合の対応について文書で説明し同意を得ておられます。終末期の在り方について確認するようにされています。看取りを希望される場合にはターミナルケアも行われていますが、医療行為が多くなった場合家族が病院、施設へ移行も説明されます。必要に応じてかかりつけ医から説明を受ける場を調整しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医やかかりつけ医との連携を職員に共通認識協力関係にある。事故やヒヤリハット事例を細目に上げることを通して全職員に伝達・教育し、初期対応力を身につけるよう努めている。応急救護の方法は現在研修が出来ておらず、以前受けた知識に留まっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等緊急事態発生時の連絡網を作り、会社より近い人から協力体制をとっている。避難訓練でも災害対策の研修も行う事で実践力を身に付ける。施設内には4部署の福祉施設があり法人全体の連絡・協力体制がある為、近隣の協力を得る可能性は少ない。	火災・地震等緊急事態発生時の連絡網を作り、会社より近い人から協力体制を取られています。法定で定められた年2回の避難訓練でも災害対策の研修も行う事で実践力を身に付けておられます。BCP計画も策定されており、各ホームごとに備蓄品も準備されています。施設内には4部署の福祉施設があり法人全体の連絡・協力体制がある為、近隣の協力を得る可能性は少ないなっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各自その大切さを自覚し、職員同士で注意しあう事が出来る様に努めている。入居者には優しく思いやりを持った丁寧な言葉使いを職員全員で心掛け実践している。馴れ親しさの間で悩む場面もあるが、尊厳保持を優先して対応を行う。	排泄・入浴マニュアルにプライバシー保護について記載されており、職員各自その大切さを自覚し、職員同士で注意しあう事が出来る様に努めておられます。利用者には優しく思いやりを持った丁寧な言葉遣いを心掛け、馴れ親しさの間で悩む場面も見られますが、尊厳保持を優先した対応に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人のペースで過ごして頂けるよう努めている。判断が難しい入居者には自己決定しやすい質問や言葉を選び自分で考える事、決める事、納得する事を大切にしている。日々の関りの中で本人の思いをくみ取ると様に心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気分や体調、など共同生活が円滑にできるよう行動、日課を考慮し、個別対応に心がけている。作業やレクリエーションなど体力的なども考慮し、本人の好みにより全員一緒ではなくても色々行えるように考慮している。部屋でゆっくり過ごして頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容(洗顔、整髪、髭剃り)支援の他、洋服やおしゃれに関して個々の担当が家族と相談しながら支援を行っている。出張理美容の利用を行っている。ただし中々馴染みの美容院に行くことは難しい。季節毎に衣替えを行い、本人に合ったものを準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好み、体調、アレルギーを考慮し、体調に合わせて刻みやトロミを付けて対応している。手作りおやつも行っており好評である。現在今まで出来たことが出来なくなり、調理などは行っていないが、下膳など出来る事は行っている。行事などは特別食やおやつを用意したりもする。	現在、外注で業者に主菜を注文されており、御飯・汁物・副菜はホームで用意されています。個人の好み、体調、アレルギーを考慮し、体調に合わせて刻みやトロミを付けて対応されています。手作りのおやつも作られており、喜ばれる姿が見えます。下膳など出来る事は行っております。行事などは特別食やおやつを用意されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成し栄養バランスは良好で、おやつも生活の楽しみで定着している。食事摂取量は随時タブレットに入力し、体調とあわせ経過観察できる。水分摂取は食事以外にも機会をつくって行っている。他個人の訴えに対しても柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、間食前の嗽や食後の歯磨きを勧め、声掛けにて行って頂いている。義歯使用者は就寝前にポリドントなどを使用し衛生面も整えている。自分で出来ない利用者には介助にて行っている。	全員に口腔ケアは行われており、状況に応じて声掛けや支援が行われています。義歯は夜間は預かれ洗浄液に入れ清潔保持をされています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。利用者の言葉や行動を察知し誘導確認を行っている。タブレットを利用し個々の排泄パターンの把握に努めている。夜間も個々人の状況を把握しながら声掛けを行っている。オムツ類は個々の状況に合わせて用意している。	トイレでの排泄を基本とされており、最期までトイレで排泄がして頂けるよう支援されています。利用者の言葉や行動を察知したり、タブレットを利用し個々の排泄パターンの把握に努め、個々の状況に合わせた声掛け、誘導、介助が行われています。夜間も個々人の状況を把握しながら声掛けを行っております。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動等を生活の中に整え、水分摂取をすすめると共に、排便-3日目で個別に便秘薬の使用調整を行っている。また日々体操を行う事で運動不足の解消をしている。往診時に相談し薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日対応している。夜入浴を断られる事が多くなり、人員配置や安全性を考慮しながら午前中、午後に入られる。時には夜入浴は1人を基本とし週2回の入浴は行っている。リフトも購入し入浴が難しい方もゆっくり浴槽に浸かって頂ける様になっている。	週2回以上を目安として、毎日対応しておられます。人員配置や安全性を考慮しつつ午前中、午後に入浴して頂いております。夕食後に入浴を希望される方もあります。リフトが導入され、入浴が難しい方もゆっくりと浴槽に入ってもらえるようになりました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は早く寝床に入りたい、寂しいので居室に行きたくない等は個別に対応している。眠前薬が必要などは医師に相談し対応する。体力面を考慮し昼食後少しの間昼寝を取って頂く。昼夜逆転にならないよう日中はレクや体操など行い過ごして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員全員、薬の理解ができる様に心がけ、解らない時は職員同士声掛けを行っている。気になる事があれば受診時主治医に伺っている。誤薬などない様に職員2人で確認を行い服薬して頂いている。	一人ひとりのカルテにお薬手帳の内容を貼り付け、職員の共通理解が図られています。基本は薬局から配達され、家族と受診された方は持って帰ってこられます。薬は職員2人で確認され、服薬されています。薬の変更時には特に注意を払い、状態変化があれば主治医に連絡され指示を仰がれます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣の情報収集し、その人らしい役割と楽しみを見つけて支援している。作業が好き、花が好き、歌が好き等声掛けも変えている。喫茶の飲み物等も各種用意し、一人ひとりの希望に沿って提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮し散歩、買い物、美容院等に個別に出かけていたが、職員体制や気候にもよるが中々出来ていないのが現状である。荘の周りの散歩や、敷地内の畑での収穫などは行っている。ドライブも行うが体調面などもあり全員での外出は出来ない。	体調や天候を考慮し散歩、買い物、美容院等に個別に出掛けておられましたが、職員体制や気候により日常的な外出は難しい状況です。ホームの周りの散歩や敷地内の畑での収穫等が行われています。春になればお花見のドライブレクも行われる予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人はいないが、事務所で預かり必要な時にし、担当職員が対応するようにしている。一緒に買い物に出かけることが現在は出来ない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて事務所の電話を使用している。個人で携帯電話を持たれている方もおられ、取次ぎを行っている。面会が再開し、家族からの手紙や写真を渡すと喜ばれ、何度も読み返されている。利用者には暑中見舞い、年賀状など直筆で書いて頂き行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔と明るさ季節感を心がけ、壁には入居者の作品を貼り絵等、季節の物を展示している。リビングには加湿器を置いて対応している。時にはオルゴールの曲、童謡などを流すことで落ち着いた空間を作ったり、歌で皆さん楽しく穏やかにリビングで過ごされている。	温度、湿度管理、換気にも気を付け、リビングには加湿器も置かれています。常に清潔と明るさ、季節感を感じられるよう心がけておられます。壁には利用者の作品を貼り、絵など季節の物を展示されています。時にはオルゴールの曲、童謡などを流すことで落ち着いた空間作りをされたり、歌を聞きながら皆さん楽しく穏やかにリビングで過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルが3台あり人間関係、認知度や介護の度合いを考慮し席を決めている。共同作業やレクレーションをして過ごす。作業の都合に合わせてその都度対応している。ソファでゆっくりテレビを見られたりと自由に座る事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は動かれるのに危険が無い様にすっきりさせている。テレビ、家族の写真、多くの小物を飾る等様々で個々の尊重をしている。	居室は動かれるのに危険が無い動きやすい動線になるようベッドの位置やエアコンの風向きにも配慮されています。隣接する小規模多機能施設の理学療法士に相談されることもあります。テレビ、家族の写真、小物を飾る等様々で個々の好みを尊重し居心地良い居室になるようにしておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで要所に手すりが有る。浴槽内は滑り止めマットやリフトを利用している。居室を分かりやすく表示し見やすい時計や大きなカレンダーを置き、自分で気付けるよう工夫している。導線に物を置かないようにし、利用者が置いた場合も片付けるようにしている。		